

令和 3 年第 1 回調布市議会定例会について（報告）

1 会期（3 月 1 日～3 月 24 日までの 24 日間）

2 市長提出議案・市長報告 計 28 件（教育部関連 3 件）— 全て可決

	案件名	概要
1	報告第 1 号 専決処分の報告 について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和 2 年 1 2 月 7 日，調布市立染地小学校 3 年たけのこ学級（特別支援学級）の児童の小児弱視治療用眼鏡が草刈り機に巻き込まれ破損したもの ・ 損害賠償の額 54,670 円
2	議案第 1 号 令和 2 年度調布 市一般会計補正 予算（第 7 号）	<p>◎教育費総額（8,626 万円の減）</p> <p>【内訳】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 調布市立若葉小学校校舎増築ほか工事設計業務委託の取止め (1 億円の減) ・ 国の補助制度を活用した保健衛生用消耗品購入経費の確保 (1,373 万円余の増) <p>【繰越明許】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校保健管理費（保健衛生用消耗品購入経費の確保） (980 万円余) ・ 中学校保健管理費（保健衛生用消耗品購入経費の確保） (392 万円余)
3	議案第 20 号 令和 3 年度調布 市一般会計予算	<p>◎教育費総額（64 億 430 万円余）※人件費を除く (前年度比 9,024 万円余，1.4%の増)</p> <p>【主な内訳】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 老朽化対策として体育館の改修等，学校施設の計画的な維持・保全，アレルギー対策を含めた給食室の改修等，学校施設の維持保全 (10 億 3,644 万円余) ・ 35 人学級編制への対応（4,650 万円） ・ 学習環境の改善（2 億 5,135 万円余） ・ 学校施設整備方針に基づく整備（3,630 万円） ・ 通学路の安全確保の推進（1 億 6,090 万円余） ・ 就学援助費の支給（1 億 6,387 万円） ・ 学校給食調理業務等の民間委託の推進（4 億 798 万円余） ・ 地域人材を活用した教育活動推進（5,064 万円余） ・ 体力向上への支援（889 万円余）

	<ul style="list-style-type: none"> ・教員の働き方改革の推進（1億1,366万円余） ・ICT教育の推進（3億8,759万円） ・命の教育活動の推進（441万円余） ・特別支援教育の推進（4,824万円余） ・不登校児童・生徒への支援（1,366万円余） ・リーダー養成講習会の推進（207万円余） ・図書購入費（6,289万円余） ・地域資料及び映画関連資料のデジタル化（166万円余） ・国史跡下布田遺跡の整備・活用（492万円余） ・郷土の歴史・文化を核とした展示・普及事業の推進（256万円余） ・武者小路実篤を核とした特色ある事業の展開（1,568万円余） ・武者小路実篤記念館の外壁・屋上防水改修工事設計委託 (157万円余)
--	--

3 令和3年度における基本的施策（市長）

4 基本的施策に対する代表質問（5会派）、基本的施策に対する質問（3会派）

5 陳情3件（教育部関連なし）

6 一般質問9人（うち、教育部関連1人）

○橋 正俊 議員（公明党）

質問 要旨	<p>1 コロナ禍だから始めた本の無料交換活動について</p> <p>(1) 川の図書館について</p> <p>令和2年春に小中学校が長期休校となり、学校図書館、公共図書館も休館となった。本を読みたい人、子どもたちに向けて自分ができることをやりたいと考えた中学2年生が、以前、アメリカで見たリトル・フリー・ライブラリをヒントに無料の本の交換 book swap を始めた。多摩川の土手を会場に、近所からも本を集め70冊で「川の図書館」を4月にスタートした。学校が始まってからも日曜日の午前中に続けている。</p> <p>本の無料交換活動はリユースという観点で環境にやさしく、文化的なコミュニティ活動としても広まっている。この活動を市としてどう捉えているか。何かアドバイスやタイアップしての支援などの考えを問う。</p>
答弁 概要	<p>(教育長答弁)</p> <p>ただいま、橋正俊議員より、コロナ禍における本の無料交換活動についての御質問をいただきました。私からは川の図書館活動に対する認識についてお答えいたします。</p> <p>私たちは、読書を通じて、社会で生きる力を身に付け、いきいきと豊かな人生を送るための様々な知識を習得し、想像力や思考力、判断力を養うことができます。</p> <p>幼児から高齢者に至るまでの生涯を通じたあらゆる学びにおいて、読書は最も基本となる学習活動であるといっても過言ではありません。そのため、市教育委員会としても、市民の読書活動</p>

を支え、地域に根ざした市民文化の創造に寄与するため、市民の参加と協働を得て積極的な図書館活動を推進してきました。

昨年の新型コロナウイルスの感染拡大により3月から5月にかけては学校の臨時休業により学校図書館が利用できなくなり、また、市立図書館も他の公共施設同様に3月末から休館となったことから、市民の読書の機会が大幅に制約され、とりわけ、子どもたちの学習環境に多大な影響を与えることになりました。

議員よりご紹介のあった「川の図書館」の活動は、このような状況のなかで、市内公立学校に通う中学生姉弟が、以前、海外で見かけた本の無料交換活動をヒントに、自発的に始めたと聞いております。この活動は、本の交換を通して子どもや市民の読書活動、また市民文化の向上に資するとともに、人と人とのつながりが生まれ、地域コミュニティの醸成にも寄与するなど、社会性が高く意義深い活動であると認識しております。

このような活動が、調布の子どもたちの熱意から始まったことは素晴らしいことであり、活動の今後を見守って参りたいと考えております。

(教育部長答弁)

私からは、川の図書館についてのご質問のうち、市立図書館による市民や地域との連携や支援に関してお答えいたします。

調布市は「いつでも どこでも だれでも」気軽に本を読めるよう充実した図書館分館網を整備するとともに、地域に根差した市民文化の創造に寄与するため市民の参加と協働による図書館活動を展開しております。

また、子どもの読書活動を推進するため、「調布市子ども読書推進計画」に基づき、子どものための読書環境の充実にも取り組んでいます。学校図書館との連携はもとより、自治会等のイベントでの本の読み聞かせや紙芝居、都立神代植物公園が主催した「こもれびの森保育」で本の展示やおはなし会など、地域のイベントにも積極的に協力、連携するなど、本と人との結びつきを支援しています。

また、図書館の蔵書が古くなった場合、廃棄するだけでなく、各館でその一部を市民に自由にお持ち帰りしていただけるようご案内し、図書のリユースにつながる取組も行っております。

ご質問の川の図書館の活動は、本の貸出ではなく交換という、公立図書館に従前から求められている役割とは異なるものではありませんが、市内在住の中学生の姉弟が自ら創意工夫して自発的に始めた意義深いものであり、市民の読書活動を推進するとともに、参加されている多様な市民のコミュニケーションの場にもなっており、関心を持って注目しております。

川の図書館に限らず、読書に係る市民の方々の自発的な活動については、その自主性・主体性を尊重する中で、今後相談等があった場合は庁内の関係部署とも連携を図りつつ、必要な協力、支援について検討して参ります。